

むらた歯科通信

No. 8 December

発行年月日

2014年12月1日

発行人

むらた歯科クリニック

今の特集

もしも歯がなくなったら・・・



生涯の供となる歯。もしその大切な歯を失ってしまったら、どうすればいいのでしょうか。

歯がなくなるとどんな不具合があるのでしょうか。

歯の抜けた場所や本数によっても変わりますが、このようなことが考えられます。

- ・老け顔になる
 - ・しゃべりにくくなる
 - ・食べ物が咬めない
 - ・残された歯にかかる負担が大きくなる
- など

歯を抜けたまま放置していると、抜けた隙間に歯が移動して、歯並びや咬み合わせに悪影響を与え虫歯や歯周病になるリスクも増加します。

また歯が抜けた状態は、他人から見た時に不健康そうな印象を与えます。

こういった社会的な面からの問題もあり、機能的な問題だけではありません。

どのようにして治すのでしょうか。

抜けた歯の部分を治療するには、大きく分けて3通りの方法があります。

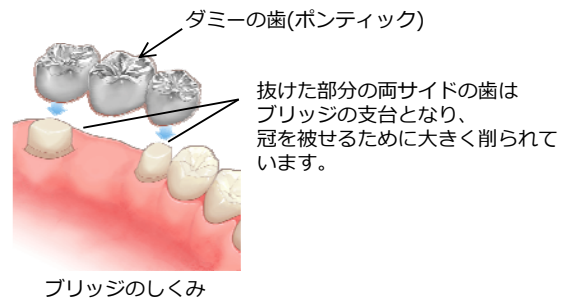
1) 取り外しの出来ない被せ物を入れる

ブリッジを入れる方法です。抜けた歯の両サイドの歯を削って、抜けた歯の所にダミーの歯を作り、両サイドの歯と連結します。

取り外しの手間がなく、見た目も自然です。装着した後も違和感が少ないという利点がある一方、大きく歯を削るという欠点があります。

また、ダミーの歯の部分にかかる力は両サイドの歯に分散されますが、歯にかかる負担が大きくなります。

両サイドの歯が虫歯や歯周病にならないよう、今まで以上に清掃をしっかりして頂く必要があります。連結されているので歯間ブラシを通して清掃する必要があります。



2) 取り外しの出来る装置を入れる

入れ歯を入れる方法です。部分入れ歯の場合はクラスプ(金属のバネ)を歯にかけて、人工歯と人工の歯ぐきの部分を固定します。

取り外して清掃できるので、入れ歯もお口の中の歯もお手入れがやすく、また噛む力は歯ぐきにも分散されるので、ブリッジに比べ歯の負担は少なくて済むという利点があります。

欠点として、バネが見えたり、取り外して清掃をしなければならないということがあります。入れ歯を入れっぱなしにしていると隙間に食べカス等が詰まり不衛生になり、逆に入れ歯を外したままにしていると、歯が移動してしまい入れ歯が入らなくなってしまうこともあります。

また歯ぐきと入れ歯の当たりが悪いと歯ぐきが傷ついて痛みが出たりします。

入れ歯の大きさが増すと異物感を感じることもあり熱の伝わりが悪いので食べ物がおいしく感じられなくなることもあります。

このため入れ歯を装着する時には細かな調整と、お口の中に慣れるための辛抱が必要になってきます。

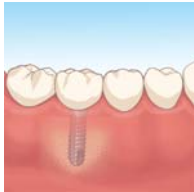


総入れ歯(上顎)



部分入れ歯(下顎)

3) 顎の骨に人工歯根を入れる
インプラントを入れる方法です。
利点は、両サイドの歯を削らなくて良いことや見た目や機能的にも自分の歯とほぼ同様に使えるということです。欠点として、自費診療となり高額な治療費になることや手術的な要素が含まれるため精神的な不安があることがあります。



インプラント

どのように治療するかは、抜けた場所や残された歯の状態によっても変わってきます。また見た目を左右する要素も大きいですから、患者さん本人の要望も十分考慮した上で治療法を決定していくこととなります。

様々な入れ歯

入れ歯を入れることは、審美性(見た目)や装着感(付け心地)が悪くなる場合もあり躊躇されることもあるかもしれませんが、そういった面をカバーできる入れ歯もあります。
(自費診療になります)

1) エステティックデンチャー
ばねの所に金属を使用していない(クラスプのない)入れ歯になります。笑ったときでも入れ歯が目立たず自然な印象を保てます。

2) 金属床
保険の入れ歯では口蓋(上顎の粘膜)部はピンク色のプラスチック素材で覆われています。その部分を金属にすることで、熱が伝わりやすくなり食べ物の熱さや冷たさを自然に感じる事ができます。また床の厚みも薄くできますので、入れ歯装着時の違和感も抑えられます。



金属床

3) シリコンデンチャー
硬い入れ歯の歯ぐきに当たる部分に、やわらかいシリコンを張り付けた入れ歯です。シリコンがクッションの役割をして歯ぐきを保護します。歯ぐきへの吸着性もよいので入れ歯がズレにくく、しっかり噛むことができます。

入れ歯にはその他にも様々な種類があります。院内にもパンフレットをご用意していますので、一度ご覧になり参考になさってみてください。

治療内容でお悩みの方は、気軽に歯科医師にご相談ください。

終わりに…。

不慮の事故などで不幸にも歯を失ってしまった場合は除きますが、歯を失わないようにするためにご自身でも出来ることがあります。それは**歯磨きをしっかりとすること**と**定期的な健診**です。歯を失う大きな原因は、やはり「虫歯」と「歯周病」です。これらを予防するには歯ブラシを使って機械的にプラーク(歯垢)を落としていくことが重要です。

小さい頃からデンタルフロスを使用してプラークの残りやすい歯と歯の間にも意識を向けた歯磨きを習慣づけるとよいでしょう。

年齢を重ねるにつれて歯と歯の隙間が広がってくるのは生理的な現象です。歯間ブラシやワンタフトブラシなどを活用してライフステージに合わせた歯磨き方法を実践できるように心がけましょう。

☆年末年始の診療について☆

年内は12/26(金)までの診療とさせていただきます。
新年は1/5(月)からの診療になります。

皆様にはご迷惑をおかけしますが何卒よろしくお願いいたします。

むらた歯科クリニック